

個体群管理の結果について

○平成 30 年の捕獲・混獲結果のまとめ（値はすべて速報値）

定置網（春期・秋期）及び刺し網により、143 個体のゼニガタアザラシを捕獲した。混獲については、漁業者からの提供により 45 個体が確認された（表 1）。

捕獲された個体の年齢構成については、当歳（幼獣）が多かった（当歳：86.0%）。性比については、全体としてメスの比率が高かったが、平成 29 年に比べて性比の偏りは低下した（図 1）。

なお、本資料においては、成長曲線に基づく推定年齢が 5 歳以上の個体を成獣（性成熟した個体）とし、2 歳から 4 歳の個体を亜成獣と区分した。

表 1. 平成 30 年 捕獲及び混獲結果の総括表

	個体数	内訳
捕獲	143 個体（♂68、♀75） 当歳：123（♂63、♀60） 1 歳：5（♂0、♀5） 亜成獣：2（♂0、♀2） 成獣：13（♂5、♀8）	春定置：3、秋定置：11、 刺し網：129、 （学術調査目的の放獣 5 は含まない。）
混獲	45 個体（♂20、♀25） 当歳：18（♂10、♀8） 1 歳：17（♂7、♀10） 亜成獣：6（♂1、♀5） 成獣：4（♂2、♀2）	春定置：3、秋定置：41、 カレイ刺し網 1

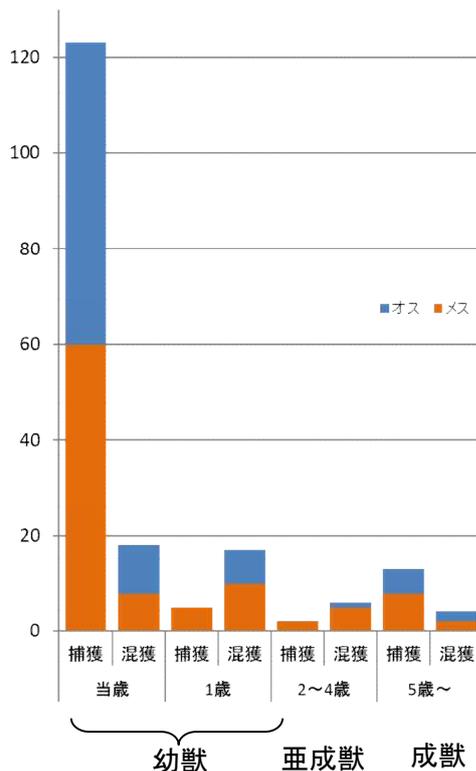


図 1. 平成 30 年 捕獲及び混獲個体の推定年齢及び性別

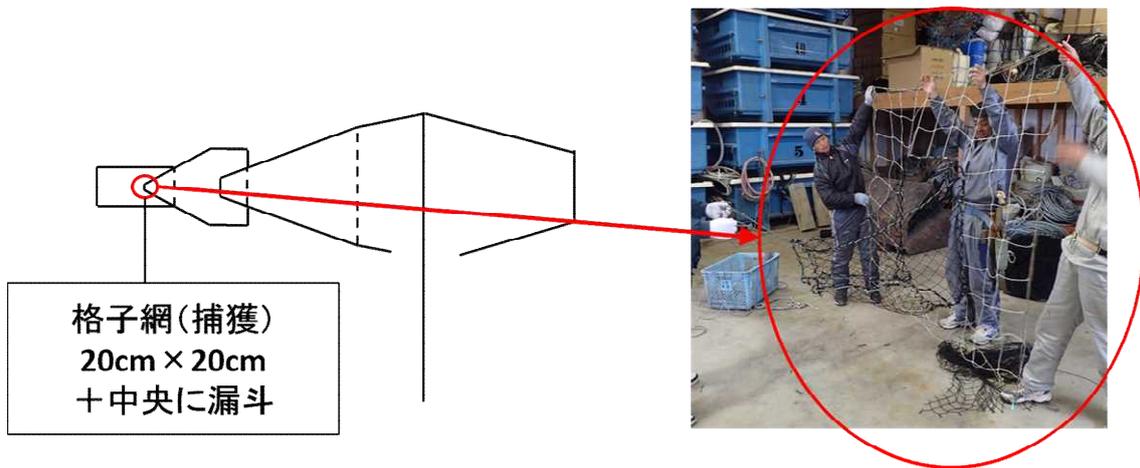
<手法別捕獲結果>

① 定置網による捕獲

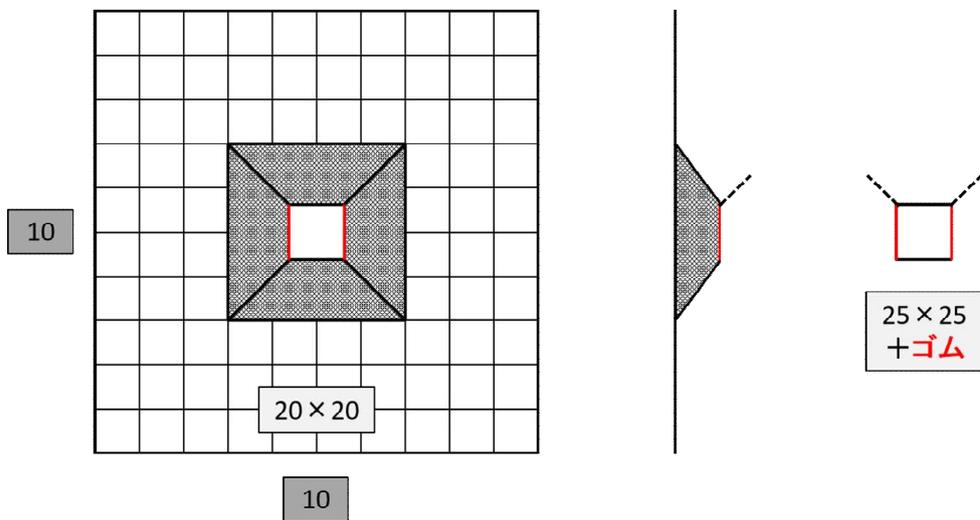
定置網を実施している東洋地区（春期）・襟裳岬地区（秋期）で定置網漁業者の協力を得て、捕獲用として入り口に漏斗式の網を装着してゼニガタアザラシが脱出しづらくした網（図2）をのべ67日間設置したところ、14個体が捕獲された。

表2. 定置網捕獲の総括表

方法	期間	結果
定置網 (捕獲用)	H30 総括（春期+秋期） (春期) 捕獲網設置期間： 5月9日～6月27日 (50日間設置、 39回網起こし) (施業期間：5/9-6/27) (秋期) 捕獲網設置期間： 9月3日～9月19日 (17日間設置、 11回網起こし) (施業期間：9/1-11/20) ※秋期は期間途中で捕 獲目安に達したため、 設置期間は短くなっ ている、	14 個体 当歳 : 1 (♂0、♀1) 1歳 : 1 (♂0、♀1) 亜成獣 : 2 (♂0、♀2) 成獣 : 10 (♂5、♀5) (春期内訳) 3 個体 成獣 : 3 (♂0、♀3) (秋期内訳) 11 個体 当歳 : 1 (♂0、♀1) 1歳 : 1 (♂0、♀1) 亜成獣 : 2 (♂0、♀2) 成獣 : 7 (♂5、♀2)



春期 捕獲網



秋期 捕獲網

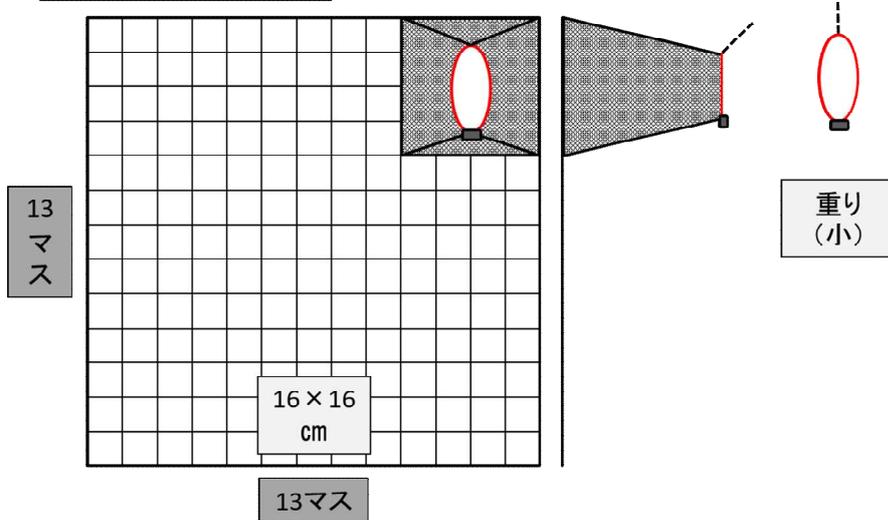


図 2. 春期と秋期の捕獲用捕獲網構造

(春期)

春期に定置網を実施している東洋地区で定置網漁業者の協力を得て、捕獲用として入り口に漏斗式の網を装着してゼニガタアザラシが脱出しづらくした網(図2)を5月上旬から6月下旬までのべ50日間設置したところ、3個体が捕獲された。捕獲個体はすべてメスの成獣であった(表2)。

平成29年度に比較的多く捕獲された捕獲網の形状を引き続き採用したが、5月中はサケ類の漁獲量もきわめて少なく、ゼニガタアザラシは捕獲できなかった。(図3)。

その後、漁獲のあった日も一部を除き、被害割合は低く抑えられており、アザラシの来遊頻度が低下している可能性も考えられる。今後とも、漁業者、有識者の意見を踏まえ、捕獲網の構造等を改良していく必要がある。

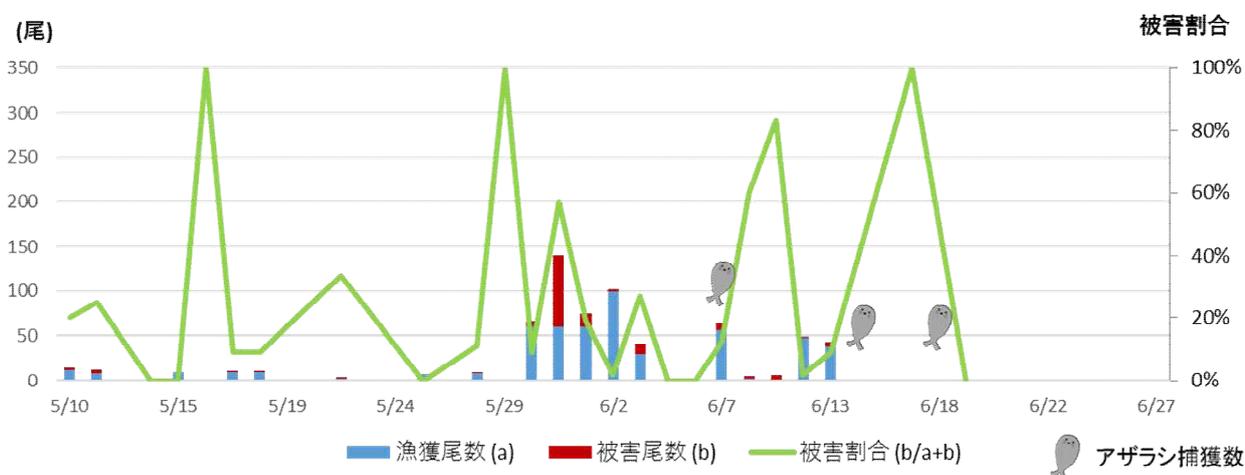


図3. 漁獲尾数・被害尾数とアザラシ捕獲状況(春期定置網:全期間捕獲網を設置)

(秋期)

平成 29 年度秋期に捕獲成績がよく比較的大型の個体を捕まえることができた「漏斗式」の捕獲網を今年度も用いた。形状は平成 29 年度終盤に使用した外枠スリット目合 16cm×16cm のものを用いた (図 2)。

捕獲網設置期間のべ 17 日 (うち網起こし 11 回) で 11 頭捕獲することができ、うちほとんどは亜成獣以上の大型個体であった。今年度の捕獲目安 (刺し網・春定置を含め 140 頭) に達したため、早期に秋定置での捕獲を終了したが、大型で、定置網に執着する個体の捕獲が可能な定置網での捕獲を優先的に行えるような仕組みの検討も必要する必要がある。

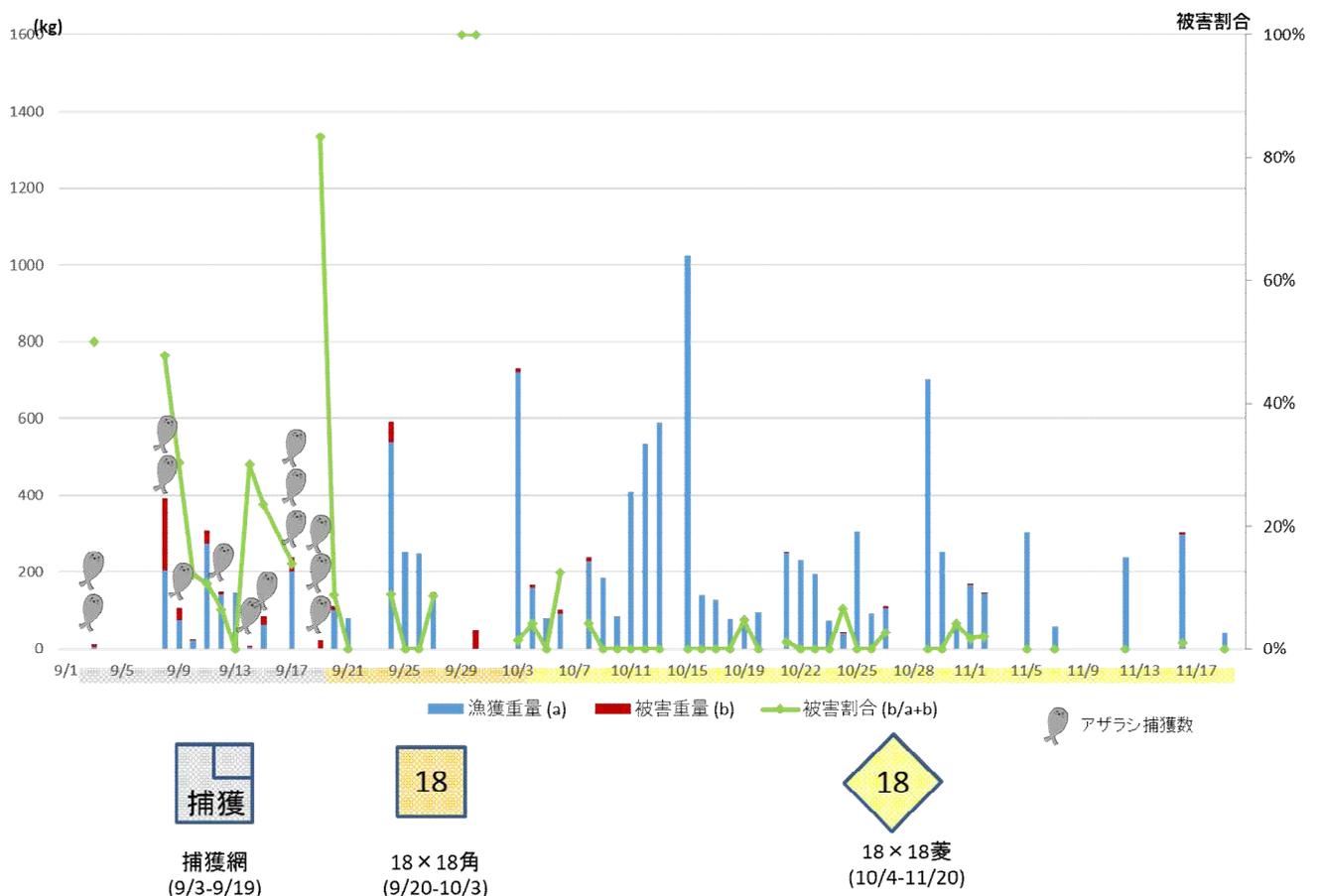


図 4. 漁獲量・被害量とアザラシ捕獲状況 (秋期定置網)

② 刺し網による捕獲

襟裳岬岩礁付近において、漁業者の協力を得て5回（1回あたりの海上での作業時間はおよそ3時間程度）、刺し網による捕獲を実施し、129個体が捕獲された（表3）。捕獲個体の年齢構成は129個体のうち122個体が当歳の幼獣と大きな偏りがあった。性比については顕著な偏りはなかった。

表3. 平成29年 刺し網捕獲の総括表

方法	実施回数	結果
刺し網 （襟裳岬岩礁付近 4回、西岩礁1回）	5回 実施日：5/23、 6/1, 5, 19, 26	129個体 当歳：122（♂63、♀59） 1歳：4（♂0、♀4） 亜成獣：0 成獣：3（♂0、♀3）

これまでの実施結果により、春期の早い時期に刺し網を行うことで捕獲数を増やすことが可能であることが示唆されたため、平成30年度は春期に集中して刺し網を実施した。結果は、襟裳岬岩礁付近で実施した4回について、平均30.5頭の個体を捕獲することができた。また、捕獲個体のほとんどは当歳の幼獣であった（表4）。

春期の捕獲個体には pup が多く、産まれたばかりの pup は運動能力の低さや学習期間の短さから捕獲が容易であることが考えられる。今回の結果から春期の早い時期に刺し網を行うことで捕獲数を増やすことが可能と考えられるが、捕獲個体には幼獣への極端な偏りがみられることから、定置網での捕獲等と併用して実施することが望ましい。

表4. 刺し網による捕獲の実施状況

実施日	設置数等	捕獲数	実施場所
5月23日	12反	44個体 当歳♂22♀18、1歳♂1、成獣♀3	岬岩礁
6月1日	12反	7個体 当歳♂4♀3	西側岩礁
6月5日	12反	44個体 当歳♂27♀16、1歳♀1	岬岩礁
6月19日	12反	20個体 当歳♂4♀15、1歳♂♀1	岬岩礁
6月26日	12反	14個体 当歳♂6♀7、1歳♂♀1	岬岩礁

<動物福祉について>

定置網、刺し網で捕獲された個体は、獣医師による麻酔や空気銃を用いた止め刺しによる安楽殺を行った。

定置網で捕獲された個体は14個体中4個体が死亡個体であった(表5)。また、刺し網については、平成29年度に漁業者の協力を得て設置時間をできるだけ短くしたり、有識者の助言を踏まえて浮きのサイズを変更したりすることで9割以上にすることができた生存率を、今年度も9割以上に維持できた(表6)。

表5. 定置網を用いた捕獲結果

	当歳	1歳	亜成獣	成獣	計
生体	1	1	1	7	10(71.4%)
死体	0	0	1	3	4(28.6%)
計	1	1	2	10	14(100%)

表6. 刺し網を用いた捕獲結果

	当歳	1歳	亜成獣	成獣	計
生体	113	3	0	2	118(91.5%)
死体	9	1	0	1	11(8.5%)
計	122	4	0	3	129(100%)